

# 高等教育機関を活用した地域活性化に関する研究報告書【概要】

## 1 高等教育機関との連携

【西之表市で展開されている大学と連携したプロジェクト「スマートエコアイランド構想」】



目的達成に向け、大学や企業等との連携を深化、発展させていく。

## 2 高等教育機関の設置

### (1) 誘致

- ・大都市における大学キャンパス設置（私立）の規制が平成 14 年度に撤廃されて以降、大学の都心回帰が顕著となり、地方の小規模校には学生が集まらなくなり定員確保が困難な状況が続いている。
- ・一方で、大学と地方との連携によるサテライト教室や研究機関の設置は進んでいる。

「スマートエコアイランド構想」による東京大学等との連携を深化、発展させる過程で、種子島や本市の特徴を活かしたサテライト型の教室や研究機関の誘致を目指していく。

### (2) 設立

#### ① 設置種別と学校種

- ・私学の受益者負担による学納金の負担は大きいとともに、18 歳人口の減少による定員割れが深刻化するなか、新規参入は経営上の課題が大きい。

- ・公立は、国の助成が地方交付税によることから、低廉な学費の設定が可能となり、学生募集上の魅力が大きく、安定経営につながる。
- ・学校種について、四年制大学は設置認可審査において、教員審査や設置経費、収支の均衡等の審査項目において実現のハードルが極めて高いと考えられる。
- ・短期大学については、地域の中でも身近な存在であり、四年制大学よりも低廉な費用で高等教育にアクセスできるという特徴を持つ。
- ・さらに、短期高等教育機関で実学教育という点で競合する専門学校との比較においては、第三者評価が義務付けられており、また、定員管理について適正な運用をするよう文部科学省によるコントロールがあり、制度上、教育の質が担保されている。

本市において設置の実現性が高い高等教育機関は、公立短期大学だと言える。

## ② 学科

- ・公立短期大学に設置する学科の分野について、地方交付税の単位費用の観点からすると、人文・社会系に比べて理工系・看護医療系が高くなっている。
- ・農学は生命工学、バイオテクノロジー、宇宙工学は人工衛星やロケット開発など国際間での激しい技術開発競争が繰り広げられており、大学院を前提にした大学構想となる。従って公立短期大学で設置するには限界がある。
- ・よって、理工系については、「スマートエコアイランド構想」における各大学との連携の深化及び発展の過程で、サテライト型の教室や研究機関の設置を目指していくことが現実的である。
- ・一方、厚生労働省は、高齢化が進み団塊の世代が全て75歳以上となる2025年には、看護師や准看護師ら看護職は全国で200万人が必要になると推計する。現在の就業者は約160万人で年平均3万人増えているが、10年後は最大13万人足りなくなる恐れがあり需要が見込める。

本市における公立短期大学の学科は、看護医療系が望ましい。

## ③ 設立に向けての課題等

